

第8期第7回さいたま市公民館運営審議会 議事録

1 開催日時

平成28年11月25日（金） 午後1時から2時30分まで

2 開催場所

生涯学習総合センター 7階 講座室1・2

3 出席者名

〈委員：10名〉

- ① 坂西 友秀 委員長
- ② 佐伯 加寿美 副委員長
- ③ 青木 光美 委員
- ④ 黒岩 清 委員
- ⑤ 田中 徳代 委員
- ⑥ 長谷部 美紀代 委員
- ⑦ 原 綾 委員
- ⑧ 松村 有香 委員
- ⑨ 山崎 秀雄 委員
- ⑩ 山田 玲子 委員

〈拠点公民館職員：10名〉

- | | |
|----------------|--------|
| ① 西区 指扇公民館長 | 鈴木 庄蔵 |
| ② 北区 大砂土公民館長 | 山本 修一 |
| ③ 大宮区 桜木公民館長 | 森田 隆之 |
| ④ 見沼区 大砂土東公民館長 | 吉田 勉 |
| ⑤ 中央区 鈴谷公民館長 | 佐藤 賢一 |
| ⑥ 桜区 田島公民館長 | 押田 龍彦 |
| ⑦ 浦和区 岸町公民館長 | 大嶋 真浪 |
| ⑧ 南区 文蔵公民館長 | 三上 富士夫 |
| ⑨ 緑区 大古里公民館長 | 藤光 若人 |
| ⑩ 岩槻区 岩槻本丸公民館長 | 宮崎 通夫 |

〈事務局：6名〉

生涯学習総合センター

- ① 館長 戸張 豊一
- ② 副館長 小川 栄一
- ③ 主幹 西渕 亮

- ④ 事業・企画係長 荻原 唯史
- ⑤ 事業・企画係主任 榎 進吾
- ⑥ 社会教育指導員 西山 尚子

4 議題

- (1) 公民館と青少年・若者のつながりについて（青少年・若者のニーズ調査の実施方法・内容について、確認）

5 配布資料

- (1) 会議次第
- (2) 第8期第7回さいたま市公民館運営審議会出席者名簿
- (3) 第8期第7回さいたま市公民館運営審議会席次表
- (4) 第8期第6回さいたま市公民館運営審議会議事録（案）
- (5) 「青少年・若者」のニーズ調査及び中学生のニーズ調査 概要（案）（資料1）
- (6) 「青少年・若者」のニーズ調査及び中学生のニーズ調査 配布先一覧（案）（資料2）
- (7) 「青少年・若者」のニーズ調査（案）（資料3）
- (8) 中学生のニーズ調査（案）（資料4）

6 公開・非公開の別

公開

7 傍聴者の数

2名

8 会議

会議は委員の半数以上が出席しているので、成立。

9 審議内容

審議冒頭前回（第8期第6回さいたま市公民館運営審議会）の議事録について、承認を経て議事に入った。

坂西委員長	それでは、議題（1）「公民館と青少年・若者のつながりについて（青少年・若者のニーズ調査の実施方法・内容について、確認）」、事務局より説明をお願いします。
-------	--

議題（1）「公民館と青少年・若者のつながりについて（青少年・若者のニーズ調査の実施方法・内容について、確認）」について、事務局より（資料1）、（資料2）、（資料3）及び（資料4）に基づき説明した。

坂西委員長	<p>ありがとうございました。</p> <p>内容が多いので、まずは、(資料1)及び(資料2)のところで、これまでの整理を踏まえ、実施の概要について説明がありました。ここまでのところで、何か質疑がありましたら伺います。それに先立ちお話ししたいのが、最近、様々な調査の実施について、非常に厳しくなっているところ。ここは研究機関ではありませんので、そこまでではないと思うのですが、人権やプライバシーに関する内容は、倫理規定上の問題になることもありますので、委員の皆様にはその点を留意いただきたいと思えます。調査の方法として、まず街頭アンケートに関しては、個々の参加の自由として、拒否することもできるので、問題は無いかと思えます。調査対象と実施箇所については(資料1)の3のとおり、(1)から(5)までありますが、それぞれ学校の校長会にお願いするか、依頼する際に目を通していただく機会がありますので、その際にチェックしていただくことで、確認はとれるものと考え、特に大きな問題は無いかと思えます。加えて、本審議会は公開で実施しておりますことから、審議会においてもチェックしていることになるかと思えますので、その点を御留意いただきますよう、お願いいたします。私としては、特にプライバシーにあたるものや、特定の個人を侮辱するような項目は無いと判断しております。それを踏まえ、改めて(資料1)及び(資料2)のところで、お伺いしたいと思います。</p>
田中委員	<p>一点、よろしいでしょうか。中学校への依頼について、学年については学校へ一任するというのでしょうか。</p>
荻原・事業企画係長	<p>そのとおりです。中学校の校長会へ調査についての説明させていただいたのですが、今の時期は3年生の生徒は受験も近いということで、2年生による実施を案として用意いたしました。しかし、各学校の実情に応じて、学年は任意として差し支えないものとして、依頼したところです。</p>
坂西委員長	<p>中学生の調査は、参考として実施するというのでしょうか。</p>
荻原・事業企画係長	<p>今回の諮問において、「青少年・若者」を16歳～39歳と定義し、その世代のニーズを知る上での基礎資料とするための調査ですので、中学生についても調査はいたしますが、「青少年・若者」とは別様式にて実施することで、分けて扱うものとさせていただきたいと思えます。</p>
坂西委員長	<p>中学生は、特に学年を調査項目に入れておりません。もし委員の皆様から御意見があれば入れることも有り得ると思えますが、学年を調査目的としなければ、特段入れる必要もないかと個人的には考えます。属性は、性別のみとしておりますが、いかがでしょうか。</p>
山崎委員	<p>お伺いしたいのですが、このアンケートの実施主体は誰なのかということです。現在、審議会でご内容について審議しておりますが、調査用紙には</p>

	<p>さいたま市教育委員会生涯学習総合センター館長とあります。教育委員会による実施ということで、アンケート結果を審議会の資料とするから、審議会で内容を検討しているということであり、審議会は実施主体ではなく、責任の所在も教育委員会ということによろしいでしょうか。</p>
荻原・事業企画係長	<p>そのとおりです。</p>
坂西委員長	<p>只今の御質問については、実施主体はどこかということでしたが、これは生涯学習総合センターとのことです。他にいかがでしょうか。無いようでしたら、概要については、16歳から39歳にかけて実施するということで、中学生については、後程審議する内容により、分けて実施するということとさせていただきたいと思います。</p> <p>それでは、(資料3)、(資料4)の部分、調査内容の中身についての御意見ををお願いします。</p>
山崎委員	<p>二点あるのですが、まず一点目として、(資料3)の設問5については、選択肢が㉔で終わっているのですが、(資料4)の設問1については、選択肢㉕があり、次の設問2が青少年・若者の設問6と同じものとなっています。(資料3)を㉔までとして、(資料4)に㉕を入れた理由をお伺いしたいと思います。</p> <p>二点目は、(資料4)の設問1について、例えば選択肢㉖の子育て支援に関することや、㉗の親への支援に関すること等が入っていますが、これは(資料3)と統一性を持たせるために入っているのか、中学生を対象としても入れたほうがよいという考えから入れているのか、このあたりの考え方について教えていただきたいと思います。</p>
荻原・事業企画係長	<p>まず、(資料4)の中学生の調査については、選択肢㉕として、当てはまるものはないという選択肢を選んだうえで、あったらいいなと思うものを記述するという形となっており、一方の(資料3)の「青少年・若者」の調査では㉕を入れていない理由についてですが、中学生については何も当てはまるものはないと答えることが大いに予想されるため、まずは㉕を選んだうえで、そこから何かあったらいいなという知恵をいただきたいということで、㉕を加えました。一方の「青少年・若者」の調査については、いずれかにはチェックしていただけるのではということで選択肢㉔までとしました。</p> <p>選択肢の内容については、中学生も別の様式にてアンケートを実施するものの、設問や回答項目を大きく変えてしまうと、かけ離れたものになってしまう恐れがあると考えたので、あえて同じ項目にしました。なお、中学生は、2～3年後に、「青少年・若者」世代となることから、自分がその世代となった時のことを想像して回答していただくよう、設問を修正させていただいております。</p>
山崎委員	<p>アンケートの目的は、ただアンケートをとることではなく、アンケート</p>

	<p>をとった結果を比較・分析することが大事で、その時に設問を統一する必要があるということで、同じ内容を聞くということはわかります。とすると、選択肢㊸についても、中学生では出るけれども、「青少年・若者」では出てこないとなると、何もチェックが無い場合であればそのように解釈するのかといった判断が必要となり、分析の際に困ってしまうのではないのでしょうか。</p>
坂西委員長	<p>項目を統一した方が、分析する際に困らないのではないかという御意見ですね。いかがでしょうか。</p>
荻原・事業企画係長	<p>山崎委員より、分析についての御配慮をいただきましたので、御意見のとおり、いずれの調査も選択肢㊸を入れ、さらに自由記述としてのアイデアをいただく内容としたいと思います。</p>
坂西委員長	<p>そうですね。そのほうが良いと思いますので、お願いします。他に、いかがでしょうか。</p>
原委員	<p>個人的意見としてお聞きいただきたいのですが、中学生には別の様式にてアンケートを実施するとのことで、設問1で「将来、あなたが参加してみたいもの」を聞いているのですが、例えば、自分自身が80歳になった時に参加してみたいものを聞かれたとしたら、わからないです。自分が将来、何を思うかはわからなくて、中学生にとって、高校生・大学生・社会人になった時にしてみたいと思うことをここで聞いて、その意味があるのかなと。それならばいっそのこと、自由な発想を求めるための別枠のアンケートとして、3ページの枠を広げるか、もしくは、「あなたが自由に公民館を使えるとしたら、どんなことをやってみたいですか。」というような設問を加えると、我々が思いつかないような視点から企画が上がってくるのではないのでしょうか。公民館のイメージを聞いて、それを払拭するためにどうするか、ということも良いとは思いますが、自分の将来のことを聞くのは、何となくイメージして答えてくれるとは思いますが、そこにリアリティがない、㊸が半分以上の結果になるのであれば、いっそのこと、自由記述を重視した方が良いのかなと思います。ただ、これまでの御意見のとおり、統一した設問による比較調査ということであれば、それはそれで意味がある、とも思います。</p>
坂西委員長	<p>今いただいた御意見というのは、中学生に重点を置くのであれば、選択項目ではなく裏側の自由記述を強調するということと、「将来」という文言にあいまいさを感じるということですね。私自身としては、この項目は非常に興味がありますが、「将来」という文言で良いのか、確かに中学生はまだ16歳ではありません。18歳の選挙権に関することもあります。中学生の社会性という点では海外の、例えば北欧の中学生に比べると未熟かなというイメージがあります。「現在」でも良いので、中学生が、今、どのようなことに関心を持っているのか、さらに公民館の中で実施している事業について聞くわけですので、それが高校生くらいになってくる</p>

	と変わってくるのかもしれませんが。もしかすると中学生がほとんど関心がない、ということになったとしても、そのことが分かるだけでも面白いのかなと思います。確かに、「将来」というと、何を指して将来とするのかわからないので、むしろ、今のあなたが参加してみたいという、どれも参加したくないという結果になるかもしれませんが、中学生の実態を見る意味はあるのかなと思います。裏側の部分は、確かに中学生に自由に記述してもらおうということで、おっしゃる通りだとは思いますが。原委員、いかがでしょう。
原委員	そうですね、「将来」という文言が漠然としているので、ここを「現在」とすると、すっとくるのかなと思います。
坂西委員長	他の委員の皆さんはどうでしょうか。
青木委員	<p>やはり、この調査で何を得たいのかというところで内容が大きく変わってくると思います。これが実態調査であるということであれば、現在の気持ちと比較して、例えば中学生と大学生では、社会に対するニーズや興味、関心が変わっていくのか年齢や成長過程によって、視野が広がっていくのか、どのような生活課題を抱えているのかという変化を見ていくことで、各講座のターゲットを定めるための材料として参考にするのであれば、現在の気持ちで聞いた方が良いと思います。一方、新しいアイデアを企画する材料として欲しいということであれば、裏面の自由記述をしやすいように、例えばもう少しヒントを入れる等して、スペースを取ったほうが良いと思います。今回の調査で考えますと、どちらかといえば実態調査の方が主なのかなという印象を持っているので、同じ項目で揃えたうえで、「現在」の文言にさせていただくと、結果として㊾が多かろうが、それが中学生の今の気持ちということで一つの資料となるとと思います。定点観察として、我々がどのような材料にしたいのかということで判断しないと、折角の調査が無になってしまうので、何を以て今後に生かしていきたいのかを整理した方が良いのではないかと思います。</p> <p>そのことと言えば、最後の属性を聞く項目で、一つ加えていただきたいのが、過去にありました「公民館を利用したことがありますか」というものです。アンケートに答えた方が、公民館に来られたことがあるのか、無いのかを知りたいのですが、中でも、公民館の主催講座・文化祭等に参加したことがあるのか、主催サークル等の自主的な活動のために部屋を借りたことがあるのか、それとも、そもそも入ったことが無いのかを分けて聞くことで、例えばサークルとしては利用したことがあるけれど主催講座には参加したことがない、という方がいれば、公民館の場所は知っているはずなので、あとは講座の中身の問題ということが分かるのかなと。自由記述も、そもそも公民館へ行ったことが無い方の意見なのか、講座を受けたことのある方の意見なのかが分かることで、今後の各館で企画を立てる際にはその結果が生きてきて、新しい人を呼び込むには良いのかなと思います。</p>

	<p>す。</p> <p>あと、地域性を見ることができたら面白いと思っていて、項目に入れる必要は無いのですが、この調査を集計する時に、例えば見沼区の中学校だとか分かるようにマークをつけておくと、区ならではの特性や、地域のニーズが分かるのではないかと思います。以上の二点について、お願いします。</p>
坂西委員長	<p>只今の御意見については、調査の目的によるということで、確かにその通りだと思います。これは諮問されている我々が考えなければならないところですが、いかがでしょうか。まず、中学生の調査の設問1について、「将来」を「現在」にするかは皆さんにお伺いするとして、その前に設問自体を残すか無くしてしまうかですが、これまで原委員や青木委員の御意見にもありましたが、何らかの形で活用できると思いますので、もし皆さんの中でこの設問がまかりならないという御意見が無ければ、このまま入れていただきたいとは思いますが、そして、公民館への参加の有無について、これは確かに以前の案にはありましたが、中学生は部活等の関係で公民館の行事か何かに参加したことがあるかもしれないですが、そういったことも全く無いのかを聞ける項目を、簡単にでも入れていただくと有効なのかなという気がします。それから、地域のことについて、調査項目には載せなくても結構ですが、との御意見ですが、今、地域が特定されるような形で実施いたしますと、問題が残ります。特に、中学校は10校のみの実施ということで、自動的に特定される可能性がありますので、整理の方法は改めて考える必要はあるかと思いますが、例えば、1・2・3…や複数の区を合併させてしまうとか、方法はあると思います。集計の段階で実施することができると思いますので、学校が特定できない形であれば、有意義になると思います。</p> <p>それでは、まず、中学校の調査の設問1を削除してしまうか、についてですが、いかがでしょうか。特に御意見はないようですね。この設問があると、調査として成り立たないというわけではありませんので、参考資料として設問を残すということをお願いします。併せて、先程の原委員からの御意見にありました、「将来」の文言が漠然としているとのことですが、この言葉をどのようにするかですが、これは具体化したほうが良いのかとも思いますが、いかがでしょうか。</p>
青木委員	<p>「将来」を取ってしまえば、良いかなと思います。</p>
坂西委員長	<p>それでは、「将来」を取るということで、よろしいでしょうか。御意見が無いようですので、「将来」を取ることで、中学生に参加したい講座を聞くという形で、この項目は生かすということで、よろしくをお願いします。</p> <p>それから、参加したことの経験の有無についても加えていただくということで、用紙にスペース等あるかと思いますが、こちらもよろしくをお願いします。</p>

青木委員	中学生の調査だけではなく、「青少年・若者」の調査についても、地域性と公民館利用経験の有無を加えていただきたいと思います。むしろ、こちらの方が重要だと思いますので。
坂西委員長	地域性を入れるというと、具体的にどのようなようになりますか。
青木委員	どこの区の実施かということです。高校であっても、各区で実施すると思いますので、地域性があれば、何区の高校生、ということで、性別等の属性とは別に統計が取れると思うので。
坂西委員長	それは、回収の段階で分別しておけば、よろしいでしょうか。
荻原・事業企画係長	学校毎に回収しますので、学校名は伏せて、例えばA学校というふうに出すことができますと思います。併せてですが、高校以上については、学校の所在地は地域特性がありますが、通学している生徒・学生は他区や市外という場合もありますので、そこは違いが出てしまうと思います。
青木委員	そうですね。ですので、実施する場所で考えるのか、住んでいる場所でののかということですが、お勤めの方や、大学生もいるので、実施する場所で考えるということにした方が、市外在住の方も多くいると思いますので、よろしいのではないかと思います。さいたま市の公民館は、市外在住でも、市内在勤・在学者の利用もできますので。例えば埼玉大学で調査を実施した場合は、桜区になるので、「桜区はスポーツに興味がある傾向にある」等の結果が出ると思うのですが、いかがですか。
山崎委員	住んでいる区にチェックを入れるのであれば、特にプライバシーには当たらないのではないのでしょうか。
荻原・事業企画係長	区毎となると、今回の調査は無作為抽出ではなく、標本数にも限りがあることから、標本には偏りが出てしまうと思い、居住地についてはあえて項目に加えませんでした。
山崎委員	私は青木委員の御意見に大賛成です。前回の審議会でもお話しさせていただいたのですが、先程、実施主体が教育委員会であることを確認した理由として、今回の諮問は、地域と若者たちをつなげるという課題に、公民館がどのような役割を持つのだろうというものですので、公民館と若者をつなげるだけでは意味がないのではないかということをお伝えさせていただきました。青木委員のおっしゃるように、公民館に若者がつながる、その理由として、自分の好きな講座があるか無いかではなく、例えばイベントなら参加するというのであれば、そのイベントを実施するということが地域の社会資源の一つになると思うので、そういったものを活用していくということができるのではないのでしょうか。地域毎に、例えば講座が無いと公民館へ行かないのか、地域で行うイベントが公民館を会場としているのであれば行ったことがあるという傾向が地域で出てきたということであれば、それを活用しようとか、そういったことを我々が諮問されている内容への答えの一つとして出すことができるので、この調査がそれにつ

	<p>ながるのではないかと思います、とても良い話と思ったのですが。区にチェックが入らないと、その地域性が読めないのかなと思いますので、本人の意思で付けたくないという方は付けなくても良いという形で構わないと思いますので、区の確認はあっても良いのではないのでしょうか。</p>
青木委員	<p>区の特定について、中学生は居住区で通っている前提があると思いますが、「青少年・若者」の調査に、各区または市外が分かる項目があると、市外の方はこういう傾向にあるということ等が分かると思うので、可能であれば、居住地で取った方が、設問の選択肢に「自宅や学校から近い」というものがありますし、回収した時に、通学している場所も分かるので。結果として、特定の区が少なくなってしまうとしても、それはそれで集計上そうなるということなので良いのかなと思います。</p>
荻原・事業企画係長	<p>只今、いただきました御意見について、地域特性という集計結果を出すことができるということですので、10区のいずれかを選択するか、市外を選択していただく選択肢を設けたいと思います。</p>
青木委員	<p>市内の場合は、括弧書きで区名を書き込めるようにすれば、二択で済むと思います。調査票のスペースも大変かなと思いますので。</p>
坂西委員長	<p>いずれにしても、区と市外ということで、確かに、どこに住んでいるのかもわからないのでは、後で判断することが難しくなってしまうので、スペースの問題をうまく工夫して入れていただくよう、お願いします。他はいかがでしょうか。</p>
佐伯副委員長	<p>一つ、要望があるのですが、「青少年・若者」の調査のⅣの属性のところで、職業の③が、「勤め人・自営業・家業手伝い」とあるのですが、勤め人には正規と非正規の方がいらっしゃるのですが、正規の方ですと多くの方が夜間や土日、非正規の方は平日の昼間に来ていただけなのかなと思いますが、そのことが設問2の時間帯に影響すると思いますし、パートやアルバイトの若い方が多いようであれば、キャリア支援になるような講座を実施するという事も考えられると思います。ですので、③を例えば、「会社員・公務員」と「パート・アルバイト・派遣・自営」と少し属性を分けたほうが、今後の公民館の使用状況や講座を考えるうえで、良いのではないかと思います。調べたのですが、現在、労働者のうち6割が正規、4割が非正規だそうです。非正規の方が約1,980万人のうち、34歳以下の方が25パーセント、44歳以下の方が45パーセントということですので、39歳以下の方ですと、およそ三分の一が非正規の方になるのかなと思いますので、このあたりは見ていった方が良いのかなと思いましたので、よろしくお願いします。</p>
坂西委員長	<p>これも、できそうなものでしょうか。呼び方もいろいろあると思うのですが、代表的なもので良いと思いますので、よろしくお願いします。</p> <p>それでは、調査の実施もありますので、このあたりで内容を確定させたいと思うのですが、諮問ですので、最終的なまとめは委員の皆さんでご検</p>

	<p>討いただき、答申を作成することになると思います。事務局で調査を実施して終わり、というわけではありませんので、委員の皆さんは、先程から出てまいりました、地域と公民館と若い人たちの三点を結びつける、という形の答申となると思いますが、あまり形に捉われないで良いのではないかと私は思います。皆さんの頭の中にあるものを出していただかないと、答申が書きにくくなってしまいます。今日、出していただいた内容が中核になると思います。事務局には何とか反映してもらいたいと思いますので、お願いします。あとは、属性として、委員の皆さんが欲しいと言った時に用意できるように、事務局にはデータを絞って、クロスして出す等していただければと思いますが、それは整理する段階で話していただければと思います。他にいかがでしょうか。無いようでしたら、これで調査の実施を12月から1月にかけて行っていくということでお願いします。あまり時間ありませんし、学校や職場も年末になってくるので、御協力いただくのもなかなか難しくなってくるかもしれませんが、よろしくお願いします。特に他に無ければ、本日の調査の実施方法、内容等についての審議を終了させていただき、この内容に沿って調査を実施していきたいと思います。調査については、12月上旬から随時開始するというので、多少前後する部分はあるかと思いますが。この後の集計結果は手作業ということで、なかなか大変かと思うのですが、次回の第8回とその次の第9回の審議会で、事務局から結果の報告をいただくという形を取りたいと思います。よろしくお願いします。本日の審議事項はこれでお終いなのですが、何かお気づきの点がございましたら、お願いします。特に無ければ、事務局からはいかがですか。</p>
荻原・事業企画係長	<p>本日の審議の中でいただきました御意見につきましては、調査票へ反映させていただきたいと思いますので、まずは委員の皆様にご覧いただいた上で、来週の街頭調査に臨みたいと思います。後日、議事録よりも先に送付させていただきますので、よろしくお願いします。</p>
坂西委員長	<p>よろしくお願いします。それでは、本日の議題は全て終了いたしましたので、進行を事務局へお返ししたいと思います。委員の皆様には、長時間にわたり、御審議いただきありがとうございました。</p>

事務局より、次回は、平成29年1月27日（金）午後1時より生涯学習総合センター7階講座室1・2において開催することを確認した。

10 閉会